

1 音楽研究部研究主題

学びのつながりと積み重ね
主体的に取り組む授業の創造
～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで
音楽に親しみ、音や音楽、音楽文化と豊か
に関わる資質・能力を育成するための授業
づくり～

2 研究副主題

「学びのつながりと積み重ねを実感できる
創作の授業」

3 研究副主題設定の理由

白井市の小学校では ICT を活用した音楽づくりが活発に行われていることが多いのに対し、中学校では歌唱に重点を置くことが多く、創作にあまり時間をかけられないという実態が浮かび上がっていた。

しかし、創作を通して得られる「自身の思いや意図を表現できた時の喜び」や「仲間と協働して作り上げた作品を他者に聴いてもらう経験」は、音楽に親しんでいく態度を養っていくうえで大事なことである。また、創作の授業は小学校からの知識の積み重ねを生かしやすく、リズムや旋律の発展など、学習のつながりやステップアップが生徒にとって目に見えて分かりやすいため、自身の学びの深まりも実感しやすいだろうと想像できる。

そこで、生徒が自身の思いや意図を表現できるような充実した創作の活動ができるようにするには、創作につながるような常時活動や他の分野とのつながりのある学習を充実させ、それらを生かせるような授業を計画すればよいのではないかと考え、副主題を設定した。

4 研究仮説

- (1) 常時活動及び歌唱や鑑賞などの学習で音楽的な見方・考え方を培えば、創作分野で学びのつながりや積み重ねを実感できるだろう。
- (2) 生徒の生活や社会に関わる創作のテーマを設定すれば、より主体的に取り組めるだろう。

5 研究内容

- ①学びの積み重ねを実感できるような常時活動の工夫
- ②創作の授業につながる歌唱や鑑賞の学習
- ③主体的に取り組むことができるテーマの設定

6 結論

- ・常時活動の難易度を学年ごとに上げたり、歌唱や鑑賞の授業で歌詞と旋律やリズムのつながりを感じ取る取り組みを重ねたりしたことを創作活動に生かし、生徒が学びの積み重ねを実感することができた。
- ・テーマの魅力を伝えるにはどんな歌詞がよいかよく考え、それらを音で表現しようと試行錯誤を重ねながら主体的に取り組むことができた。また、実際に仲間同士で歌って試してみたり、意見交換したりする姿がみられた。
- ・今回は、常時活動としてリズムトレーニングを重点的に取り入れたが、その他学びの積み重ねを実感できる常時活動の充実の必要性を感じた。

第三部会

白井市立大山口中学校 井口 歩
白井市立白井中学校 佐藤 恵

1 研究主題

音楽研究部研究主題

学びのつながりと積み重ね 主体的に取り組む授業の創造
～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、
音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

2 研究副主題

「学びのつながりと積み重ねを実感できる創作の授業」

3 研究副主題設定の理由

(1) 学習指導要領との関わり

中学校学習指導要領 第2章 第1節 音楽科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽の良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

白井市の小・中学校は、出張などで音楽主任が顔を合わせるときには校種の枠を越えて指導法を尋ね合うなど気軽に情報の交換をし合うことができ、とてもよい研修の場となっている。

これまでの情報交換を通して、小学校ではICTを活用した音楽づくりが活発に行われていることが多いのに対し、中学校では歌唱に重点を置くことが多く、創作にあまり時間をかけられないという実態が浮かび上がっていた。

しかし、創作を通して得られる「自身の思いや意図を表現できた時の喜び」や「仲間と協働して作り上げた作品を他者に聴いてもらう経験」は、音楽に親しんでいく態度を養っていくうえで大事なことである。また、創作の授業は小学校からの知識の積み重ねを生かしやすく、リズムや旋律の発展など、学習のつながりやステップアップが生徒にとって目に見えて分かりやすいため、自身の学びの深まりも実感しやすいだろうと想像できる。やはり、創作は、音楽的な見方・考え方を培ううえで欠かせない大切な活動だと考える。

そこで、生徒が自身の思いや意図を表現できるような充実した創作の活動ができるようになるには、創作につながるような常時活動や他の分野とのつながりのある学習を充実させ、それらを生かせるような授業を計画すればよいのではないかと考え、副主題を設定した。

(2) 生徒の実態から

白井市は千葉県の北西部に位置している。北総線開通に伴い千葉ニュータウンへの入居が開始されたことにより人口が増加し、現在約6万人が住んでいる。白井市には5校の中学校が存在するが、農業地帯の学校と、駅に近い学校では、在籍生徒数に大きく差がある。

本研究では、まず対象となる中学2年生が、小学校の音楽づくりで学習してきたことを調べた。(資料1) 小学校では、言葉をもとに4分音符や8分音符で音楽をつくったり、ICTのツールを利用して、5音音階や指定された和音の中から音を選び旋律をつくったりしていた。また、自分でつくった旋律の終わりがつづく感じが、終わる感じかを考え、友だちとつなげてまとまりのある音楽をつくる活動をしていた。よって、小学校で学習したことを発展させ、中学校では自分で作詞したり、リズムをもっと細かくしたり、旋律に思いや意図を込めることができれば、生徒自身が成長を実感できる授業となるのではないかと考えた。

中学校の音楽の授業時数は小学校よりも少ない。中学1年生は年間45時間、中学2・3年生は35時間で、ほぼ週1時間の学習となる。この限られた時間の中で創作の時間を確保するためには、常時活動の時間を充実させることが有効と考えた。また、創作のテーマを学校紹介とし、近隣小学校に自分の学校紹介をする目標を立てれば、各々が主体的に取り組みやすくなるとともに社会と関わる力の一助になるのではないかと考えた。自分が創作し実際に演奏した音楽を披露することを通して、生徒自身が学びのつながりや積み重ねを実感できるようにしていきたい。

4 研究仮説

【仮説1】 常時活動及び歌唱や鑑賞などの学習で音楽的な見方・考え方を培えば、創作分野で学びのつながりや積み重ねを実感できるだろう。

【仮説2】 生徒の生活や社会に関わる創作のテーマを設定すれば、より主体的に取り組めるだろう。

5 研究の実際・・・主に白井市内の3校（大山口中学校、白井中学校、七次台中学校）で実施

実践Ⅰ 2024年9月～2025年5月 第1学年～第2学年
常時活動 リズムトレーニング、鑑賞授業、歌唱授業

実践Ⅱ 2025年1月 第1学年
題材名 コード進行をもとに旋律をつくろう
(コードの中から音を選び、4小節の歌唱の旋律をつくる)

実践Ⅲ 2025年6月 第2学年
題材名 学校紹介ソングをつくろう
(学校紹介の歌詞をつくり、カノンコードの中から音を選び、8小節の歌唱の旋律をつくる)

※実践Ⅱ、Ⅲともに音楽 Web アプリケーション「カトカトーン」(教育芸術社)を使用。

(1) 仮説1について(手立て①②③)

手立て①

常時活動にリズムトレーニングを取り入れ、リズムに親しみ、創作に生かせるようにする。

実践 I

1 年次には、8 分音符までの音価の音符を 4 マス×4 マスに並べ、縦、横、斜めの並びでリズムを手拍子で打ったり、別の位置からスタートする異なるリズムの並びを重ね合わせ、リズムアンサンブルを楽しんだりするトレーニングを常時活動として取り入れた。

2 年次には、1 6 分音符までの音価の音符を取り入れ、リズムトレーニングやリズムアンサンブルを行った。(資料 2)

1 6 分音符のリズムパターンを覚える際には、リズムに当てはまる言葉を考え、声に出しながら手拍子をしてリズムと言葉を関わらせる活動を行った。「歌詞づくりから旋律・リズムづくり」の流れで創作を行うことを見据え、「リズムから言葉」だけでなく、「言葉からリズム」を考える常時活動も行った。(資料 3)

《手立て①の成果と課題》

- 常時活動としてリズムトレーニングを行うことで、徐々にリズムを読むスピードが上がり、学びの積み重ねを実感することができた。
- 音価やリズムパターンの種類を小学校の時より増やしたことも、学びの積み重ねの実感に繋がった。
- 創作だけでなく、歌唱授業の読譜や部活動の読譜にも生かすことができた。
- 音符の見た目で音価を認識している生徒は、創作の際、「カトカトーン」の音価の表示(1 マスで 1 6 分音符 1 つ分)に混乱していた。

手立て②

歌唱や鑑賞で、旋律・リズムと歌詞の関わりを感じ取る音楽的な見方・考え方を働かせて、創作に生かせるようにする。

歌唱授業や鑑賞授業においても、旋律・リズムと歌詞との関わりを感じ取ることを意識できる時間ができるよう考えた。授業で取り扱う作品の中で、わかりやすい場面を選んで、その部分について生徒同士で意見交換をした。歌唱においては、表現に生かすように働きかけをした。

学 年	歌 唱 / 鑑 賞	題 材 (曲)	教員の問い	生徒の意見
1	鑑賞	春 第1楽章	ソネット※注1の情景を音楽でどのように表現しているか。 ※注1 14行からなるヨーロッパの定型詩	・長調の響きで明るい雰囲気 ・細かいトリルで鳥の鳴き声 ・激しく細かい音符で嵐の激しい感じ。雷がピカピカ光る感じ。 ・途中短調(暗い響き)になって、天気が悪い感じ。
1	歌唱	夏の思い出	「はるかな尾瀬～」の部分の音の跳躍や音の長さでどんな感じがしたか。	・音が高く跳躍し、長い音符→尾瀬の広い感じ。 ・尾瀬の綺麗な風景にうっとりしている感じ。
1	鑑賞	魔王	詩の情景や登場人物の心情を音楽でどのように表現しているか。	・必死に馬を走らせている→ピアノの伴奏のリズムや速さで表現している。 ・恐怖が増していく息子の様子→だんだん音を高くして緊迫感が増す様子を表現している。 ・魔王の誘いから脅し→誘っている時は軽やかなリズムで明るい響き(長調)。最後の時だけ強く暗い響き(短調)。
1	歌唱	Let's search for Tomorrow	歌詞と旋律やリズムの関わりが深いと感じる部分はどこだろうか。	・「この広い」の部分。跳躍して広い感じ。 ・「期待膨らませて」の部分。膨らむように音が上がっている。 ・「今、旅立とう 後ろ、振り向かず」の部分。間の休符で緊張感が出る。
1	鑑賞	CMソング	・CMソングを聴いた人が印象に残るように、どのような工夫がされているだろうか。 ・歌詞と旋律やリズムの関わりが深いと感じる部分はどこだろうか。	・商品名にぴったりと合うリズムや音程を使っているから、頭に残る。

2	歌唱	時の旅人	歌詞と旋律やリズムの関わりが深いと感じる部分はどこだろうか。	・「めぐるめぐる」でだんだん音が上がって勢いがつく感じ。 ・「風～」で一気に跳躍して吹き抜ける感じ。 ・「汗を拭って…」の部分。言葉のリズムと合っていて、じっくり語りかけているみたい。
---	----	------	--------------------------------	--

《手立て②の成果と課題》

- 旋律・リズムと歌詞のつながりを感じ取る生徒が多くなった。創作の際に「活発な感じを細かいリズムで表現する」「跳躍させて広い感じを表現する」等、身についた見方・考え方を生かすことができる生徒が多かった。
- 教員が誘導して意見を導くようになってしまう場面もあった。

手立て③

鑑賞や歌唱で身近なコード進行に親しみ、創作に生かせるようにする。

1年次には、I-IV-V-Iのコード進行に合うように和音構成音を使用して4分の4拍子4小節の創作を実施した。2年次には、J-POPでも用いられることが多く、生徒にとって身近なカノンコード（I-V-vi-iii-IV-I-IV-V）を用いて、4分の4拍子8小節の創作とした。1年次よりも長い小節数であり、マイナーコードも含むコード進行を条件とすることで、学びのつながりや積み重ねを実感できるようにした。

カノンコードの響きを感じ取り、親しむことができるように、創作の内容に入る前に鑑賞や歌唱でカノンコードが用いられている曲を扱った。（資料4）

【鑑賞】

- ・カノンコードに親しむ導入として『パッヘルベルのカノン』を鑑賞し、コードの響きや、展開していく旋律の動きを味わって聴いた。
- ・生徒が知っているJ-POPの曲でカノンコードが用いられている部分を紹介し、コードの響きや、コードに乗っている旋律の親しみやすさを味わって聴いた。

【歌唱】

授業開始のウォーミングアップとして、『糸』『マリーゴールド』『チェリー』の歌唱に取り組み、カノンコードの響きを感じ取った。

《手立て③の成果と課題》

- カノンコードのように繰り返される同じコードの響きでもさまざまな旋律の展開ができることを理解することができた。
- さまざまな曲を聴いたり歌ったりして、カノンコードに親しむことができた。
- カノンコードの構成音を理解し、創作の際に、コードに合う音選びをすることができた。
- 大山口中学校の創作では、1小節ずつでコードを進行させたところ、曲の停滞感を感じた。これを受けて、次に実践した七次台中と白井中では、2拍ずつでコードを進行させる設定とした。
- 学校紹介ソングの「楽しいよ」という歌詞でも、マイナーコードを使わざるを得ない箇所ができてしまった。

(2) 仮説2について（手立て④）

手立て④

生徒が、思いや意図をもって創作に取り組むことができるテーマの設定をする。

生徒の日常生活や学校生活に関わるテーマの設定をし、思いや意図をもって主体的に創作に取り組めるようにした。

実践Ⅱ

題材名	コード進行をもとに旋律をつくろう
実施時期	1年次 1月～2月
創作のテーマ	冬に関する5つのテーマの中から1つを選び、テーマの魅力が伝わる曲を創作する。 クリスマス②お正月③冬の自然④冬のスポーツ⑤冬の食べ物
テーマのねらい	選んだテーマの魅力や、考えた歌詞の意味や歌詞が表す雰囲気が聴く人に伝わるように、思いや意図をもって根拠のあるリズム・音選びができるようにする。
創作の条件	・4分の4拍子、4小節の旋律をつくる。 ・I-IV-V-Iのコード進行に合うように、和音構成音を使用する。経過音等の非和声音も効果的に使用してよい。 ・使用できる音域は、声域を想定し「イから2点ホ」とする。 ・使える音価は、8分音符以上とする。 ・イメージを表現するために、上行、下行、順次進行、跳躍進行などに注目し、音のつながり方を工夫する。
使用アプリケーション	音楽 Web アプリケーション「カトカトーン」（教育芸術社）を使用

実践Ⅲ

題材名 学校紹介ソングづくり	
実施時期	2 年次 6 月（歌詞づくりは授業外で実施）
創作のテーマ （歌詞）	学校の魅力が伝わる紹介ソングをつくる。 ・ 小学校と中学校の違い ・ 学校の特色 ・ ○○中学校あるある ・ 部活や行事の紹介 など
テーマのねらい	創作した曲を、実際に地域の小学校 6 年生に聴いてもらうことを想定する。学校の魅力や、先輩としての思いを曲に込め、曲を聴いた小学生が中学生生活へ期待をもつと同時に、中学校の音楽授業の学びへの意欲を高めることをねらいとしている。1 年次に引き続き、思いや意図をもって根拠のあるリズム・音選びができるようにする。
創作の条件	・ 4 分の 4 拍子、8 小節の旋律をつくる。 ・ カノンコード（Ⅰ-V-vi-iii-Ⅳ-Ⅰ-Ⅳ-V）のコード進行に合うように、和音構成音を使用する。経過音等の非和声音も効果的に使用してよい。 ・ 使用できる音域は、声域を想定し「イから 2 点ホ」とする。 ・ 使える音価は、1 6 分音符以上とする。 ・ 言葉のリズムに合うように、常時活動で取り組んだ 1 6 分音符のリズムパターンを必ず 1 つは使用する。 ・ イメージを表現するために、上行、下行、順次進行、跳躍進行などに注目し、音のつながり方を工夫する。 ・ 創作している中で、意味が変わらない程度であれば歌詞の言葉を足したり変えたりしてもよい。
使用アプリケーション	音楽 Web アプリケーション「カトカトーン」（教育芸術社）を使用

《手立て④の成果と課題》

○実践Ⅱでは、「お餅の伸びる様子が伝わるように音の長さを工夫して表現したい」「クリスマスが楽しくてウキウキした気持ちをリズムで表現したい」等、実践Ⅲでは、「実際に小学 6 年生に聴かせるので、印象に残るようにリズムを工夫したい」「中学校生活の様子を、駆け上がるような音の並びをつかって楽しさを表現したい」等という思いや意図をもち続け、表現しようと試行錯誤を重ねながら主体的に取り組めた。

○創作した歌詞や旋律に込められた思いや意図を発表し合い、互いによさを味わうことができた。

●「思いや意図の表現」が先行しすぎてしまうと、跳躍進行の多用等、歌にくい旋律やリ

ズムになってしまうことが多かった。(実践Ⅱ) 実践Ⅲにおいては、「思いや意図の表現」を大切にしつつ、「歌としての歌いやすさ、親しみやすさ」も考え、実際に仲間同士で歌って確かめ、意見交換をする取り組みを行った。

6 成果と課題 (資料7)

【仮説1】

- 常時活動の難易度を学年ごとに上げたり、歌唱や鑑賞の授業で歌詞と旋律・リズムのつながりを感じ取る取組を重ねたりしたことによって、音楽的な見方・考え方が培われ、学びの積み重ねの実感につながり、それらを創作に生かすことができた。
- 培った音楽的な見方・考え方を生かして、根拠のある音選びができるようになった。
- 歌唱分野においても、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え、歌唱表現の創意工夫につながるようにしていきたい。
- 今回は、常時活動としてリズムトレーニングを重点的に取り入れたが、学びの積み重ねを実感できるその他の常時活動の充実の必要性を感じた。
- 今回、中学校1年次から中学校2年次で実践を行ったが、この学びの積み重ねを中学3年次にどう繋げるか、今後考える必要があると感じた。

【仮説2】

- 実際に小学生に聴かせるという想定で、歌詞の言葉の意味や雰囲気についてよく考え、それを表現しようと試行錯誤を重ねながら主体的に取り組むことができた。
- 実際に歌うことを想定して、自分たちにとっても歌いやすいかどうか、仲間同士で歌って試してみたり、意見交換したりする姿がみられた。
- 恥ずかしさを感じてしまう生徒もいた。そのような生徒が主体的に取り組む気持ちが芽生えるような声かけの工夫が必要だった。

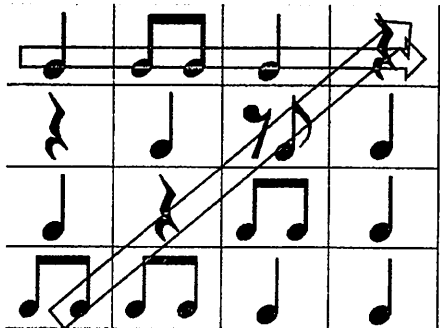
資料編

【資料1】白井市の小学校における音楽づくり（現中学2年生の市内複数の小学校での実践）

※この中のすべてを現中学2年生が学んでいるわけではない。

	音楽づくりの実践（題材名）	音楽づくりにつながる常時活動
1年次 H30度	・「たん」と「うん」でリズムをつくろう ・どれみふぁそのおとであそぼう ・ほしのおんがくをつくろう ・ことばのリズムであそぼう ・ねこのなきごえであそぼう	・「たん」や「たた」を使ったリズムに当てはまる言葉さがし ・まねっこリズム ・リズム打ち
2年次 R1度	・音のかさなりやリズムをえらんで合わせよう ・ことばのリズムであそぼう ・おまつりの音楽をつくろう ・ドレミでお話	・まねっこリズム ・リズム打ち ・ことばあそび
3年次 R2度	・リズムなかまで楽しもう ・リズムを組み合わせて音楽をつくろう ・曲の感じに合ったばんそうをくふうしよう（『雪のおどり』より） ・音のひびきや組み合わせを楽しもう ・いろいろな声で表げんしよう ・はくの流れにのって歌や遊びを楽しもう	・リズム打ち
4年次 R3度	・音階をもとにして音楽をつくろう ・音の動き方を生かしてせんりつをつくろう ・役わりをもとに音楽をつくろう ・お祭りの音楽をつくろう	・「ソラシ」でせんりつづくり
5年次 R4度	・沖縄風の音楽をつくろう ・インターロッキングの音楽をつくろう ・強さを変えてハンドクラップを楽しもう ・和音に合わせてせんりつをつくろう ・ずれの音楽を楽しもう ・いろいろな声で音楽をつくろう	・8拍で、できごとを話す。 （リズムは8拍におさまっていればなんでもOK） ・リズム打ち（強弱や速度の変化）
6年次 R5度	・言葉をもとにリズムで遊ぼう ・和音にふくまれる音を使ってせんりつをつくろう ・言葉をもとにリズムで遊ぼう！ ・動機をもとに音楽をつくろう ・じゅんかんコードをもとにアドリブで遊ぼう	・8拍で、できごとを話す。 （リズムは8拍におさまっていればなんでもOK） ・リズム打ち（リズムの変化）

【資料2】手立て①「リズムトレーニング」

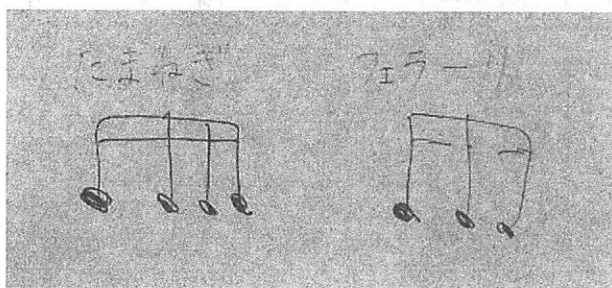


1年次のリズムトレーニング（例）

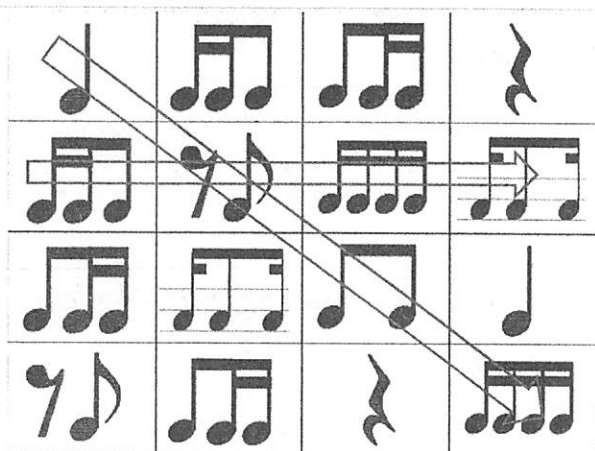
小学校で学んだ8分音符を確実に理解できるようにした。

リズムパターンと矢印の向きは日によって変えた。

●リズムパターン●



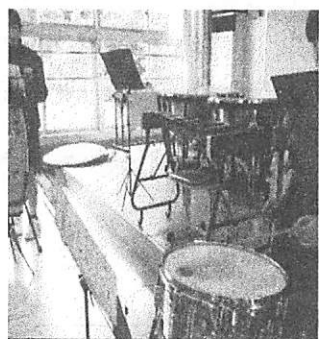
2年次に16分音符のリズムパターンを増やした。覚えやすくするために、リズムに合う言葉を考えた。生徒やクラスによってさまざまな言葉がでてきた。



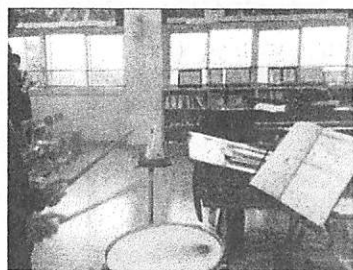
2年次のリズムトレーニング (例)

1年次で取り組んだ8分音符に、2年次で取り入れた16分音符も混ざった表にした。

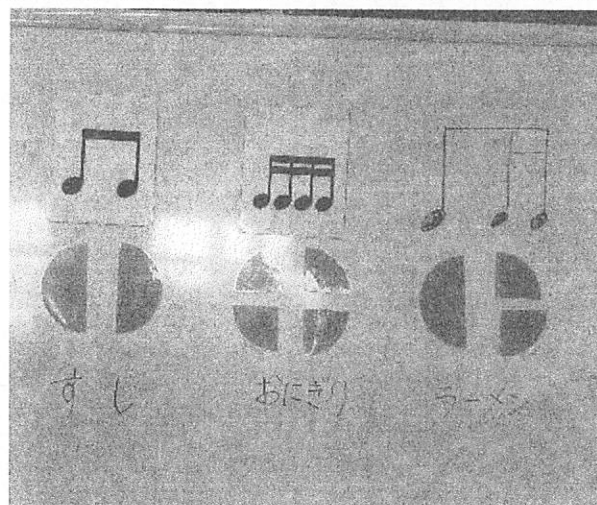
打楽器を使用したリズムトレーニング



楽しく取り組めるように、手拍子だけでなく、楽器を使って取り組んだ。打楽器でリズムを順番に重ね合わせ、即興アンサンブルを行った。
(白井中)



【資料3】リズムから言葉、言葉からリズム



リズムに合う言葉を考えた。手拍子で叩いて、「タタタタだから4文字の言葉...」と考えた。(大山口中)

こんにちは



バスケットボール



まずは簡単な言葉からリズムに当てはめて手を叩いた。その後、学校紹介で使用する可能性のある「七次台中」や「学級活動」などの言葉を提示し、生徒にどんなリズムが当てはまるか考えさせた。

学校紹介の歌詞にリズムを当てはめる学習で、生徒は自然に行うことができた。(七次台中)

言葉に合うリズムを考えた。この日は陸上部3人で、陸上にちなんだ言葉。1人は言葉を考え、2人はリズムを当てはめた。(大山口中)

【資料4】カノンコードに親しむ取り組み

♪カノンコード♪

コードの構成音 (C Major)

I	V	vi	iii	IV	I	IV	V
ド	ソ	ラ	ミ	ファ	ド	ファ	ソ
ミ	シ	ド	ソ	ラ	ミ	ラ	シ
ソ	レ	ミ	シ	ド	ソ	ド	レ

カノンコードが用いられている曲

♪パッヘルベルのカノン(パッヘルベル)

♪マリーゴールド(あいみょん)

♪糸(中島みゆき)

♪チェリー(スピッツ)

♪キセキ(GReeeeN)

♪RPG(SEKAI NO OWARI)

♪クリスマス・イブ(山下達郎)

など…



カノンコードの響きを味わい、仕組みを理解するために、カノンコードが使用されている曲を鑑賞したり、授業開始のウォーミングアップで歌唱したりした。5月、生徒と教員で「パッヘルベルのカノン」を演奏した。(大山口中)

【資料5】手立て④ 思いや意図を込めて創作に取り組むことができるテーマの設定

白井中学校 学校紹介

作詞：2 学年

在校生が 白井中を わかりやすく 紹介するよ
今から魅力を伝えるよ

白井中はいつでもみんな 仲良く毎日楽しい学校
学年を 超えてもみんな 仲がいい 楽しいよ
一年生でクラス替え 楽しい輪が広がるよ

ブレザー学ラン黒い制服かっこいい

金びかボタンも ついてるよ

自販機の 飲み物が めっちゃ おいしいよ

先生の授業楽しみ満載 面白い話が聞けるよ

体育の授業 みんな全力 準備運動

中学校 バレー バスケ 陸上 吹奏楽 野球 テ
ニス 創作 バスケ

楽しい部活がたくさんあるよ

野球部 いつでもどこでも プレイボール

部活最高 先輩優しい ぜひ来てね

白井中は人数少ない だからたくさん活躍でき
る

どの部活も全力で 取り組んでいるよ

先輩と関われるいい機会 みんなの楽しみだ

3年間仲間とともに 最後までやろう

体育祭 青と黄色 正々堂々真っ向勝負

部活動対抗リレー それぞれの絆で勝つ

チームで心を合わせる かっこいい演舞を披露

三年生最後の勝負 そのために応援しよう

白井中 みんな元気でとても楽しいよ

楽しい部活がたくさんあるよ

わくわく楽しい学校生活が待ってるよ

七次台中学校紹介ソング ～2年C組～

一人ひとりの個性の色 悲しいこともあるけれども
助け合って分かち合う青春 まるで七色の虹

朝日にきらめく並木道 友と語らい今日も夢見る
学びの窓へ希望のチャイム 七中へ続くこの道

朝日が差し込む校舎の窓に 遠くに光るスカイツリ
ー 富士の姿もここから見える

毎年来るふくろう親子 七中のマスコット にほん
たんぽぽ頭につけて できたよななふくこ

家庭学習 未来へ1ページ 日々の取組毎日やろう
授業方針 みんなでやろう T字班

自間清掃で汚れに気づけて観察力と集中力が格段に
上がる

給食行こうよ健康委員会 未来につなげる環境委員会
ルール守らす生活委員会 学力アップだ学習委員会

みんなを笑顔に放送委員会 みんなを笑顔に図書委員
会 歌声届ける歌声委員会 皆をまとめる評議委員会

校庭ぐるぐる陸上部 すばやく移動バスケット ソフ
トテニス野球にサッカーバレーもあるよ

七中部活 名前がたれてる剣道部 ゆるくて自由な美
術部 元気で明るい家庭科部 愉快的な仲間の吹奏楽部
そして自由に活動卓球部 楽しい部活で盛り上がる
う！

七中行事 みんなでつくる 熱い熱い体育祭 ホール
に奏でろ山稜祭 感謝を伝える予選会

なんでも全力 一致団結最高に楽しい七中行事

♪ 大山口中学校紹介ソング ♪

作詞: 大中2学年

① 出だし

小学6年生のみんなは大中どんなところだと
おもう?
大中学生から伝えたい 大中のいろんなこと
大山口中学校紹介ソングつくってみたよ
楽しんでくれるとうれしいな それでは聴いて
ください

② 小学校と中学校の違い

まずは、小学校と中学校のちがい
シャーペン使える 制服がある
教科によって先生かわる
年に4回の定期テストがちょー大事

③ 小学校と中学校の違い(2)

いろんな名前もかわる
クラスは1組2組...からA組B組...になる
算数は数学 図工は美術
児童会は生徒会とよばれるよ

④ 大山口中学校の特徴、魅力

挨拶活気に溢れてる
柔道場の明倫館
木の香り素敵図書館言の葉館
グラウンドもとっても広いよ

⑤ 大中あるある

大中あるあるいっぱいあるよ
ジャージ3色学年カラー
2分前入室、1分前着席
「手洗ったら座って!」の呼びかけ全力

⑥ 大中あるある(2)

先生いっぱいみんな個性的
本気のおかわりじゃんけん
サッカー部の声がでかい
SIG でテンションあがる

⑦ 部活・委員会

部活はとっても活発
大会、コンクール、全力! 本気!
学校生活生徒が動かす
いろんな委員会毎日大活躍

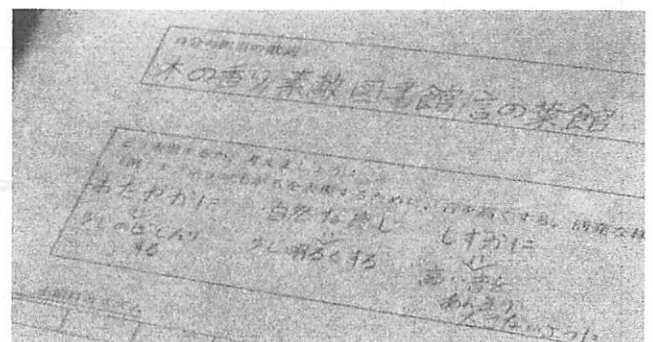
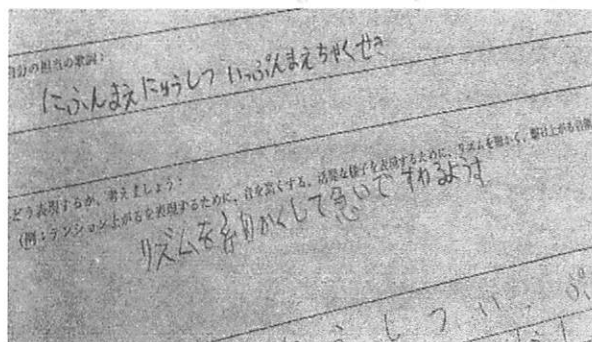
⑧ 行事

行事に全力 一生懸命
体育祭に合唱コン
自分たちで創る感動
大盛り上がり

⑨ 曲の最後

大中の魅力伝わったかな?
中学校は楽しいよ
一緒に楽しく過ごそうね
みんなの入学待ってるよ

※SIG・・・「スーパー一斉下校」



【資料 6】 学校紹介ソング 創作した旋律（大山口中）

Two systems of musical notation for a school introduction song. Each system consists of three staves. The top staff features a melody with Japanese lyrics. The middle and bottom staves provide piano accompaniment. The tempo is indicated as $J = 90$.

学校紹介ソング 創作した旋律（七次台中）

Four systems of musical notation for a school introduction song. Each system consists of three staves. The top staff features a melody with Japanese lyrics. The middle and bottom staves provide piano accompaniment. The tempo is indicated as $J = 90$.

【資料7】

〈実践Ⅲ終了後の生徒のふりかえり（大山口中学校）より抜粋〉

担当した歌詞、工夫した点

担当した歌詞	工夫した点
木の香り 素敵図書館言の葉館	図書館って静かで落ち着いた雰囲気を感じがしたから、リズムをあまり細かくせず滑らかにするために伸ばす部分を多くした。
グラウンドもとっても広いよ	広いということを表現するために最後の音を伸ばした。リズム感を出すために、休符を多めに入れた。また、歌いやすいように音の高低差があまりないようにした。
行事に全力 一生懸命	一生懸命というところを強調するために音を高くして、次の歌詞担当の人と音の差が大きくならないように最後のほうは音を下げて次の人の音との違和感をなくした
SIG でテンション上がる	「テンション上がる」の「上がる」を強調したかったのでそのところを高い音にした。
みんなで楽しく大盛り上がり	大盛り上がりの部分で音を高くして、音も盛り上がった雰囲気にしました。皆が歌いやすいように、音の高さなどを工夫しました。
2 分前入室 1 分前着席	座るときの忙しさを細かいリズムで表現しました。

〈実践Ⅲ終了後の生徒のふりかえり（大山口中学校）より抜粋〉

1 年生の時よりも成長したと思うのは、どんなところですか。

・1年生の時と比べ、リズムをしっかりと考え曲を作ることができた。また、歌詞でどの部分を強調したいか、についても考え、実際に工夫して作ることができた。 ・リズムの理解度が上がった。 ・班員と協力して、より歌いやすい曲に仕上げることができた。
前よりも長い音楽を完成できたところ。16 分音符を使って作ったところ。
しっかり 16 分音符などのリズムを理解して取り組むことができた。
身についたのは歌詞をもとにして頭の中でイメージして音の高さやリズムをつけられた。成長したのは班のなかで話し合いに参加出来たりアドバイスを受けたら素直にその通りにやったり、逆にアドバイスもできた。
1 年の頃は、歌詞にあったリズムをつくるのがうまくいかなかったけど、今回では歌詞にあったリズムをつくることができた。
この歌詞にはどういった音をつければよいかななどを自分で考えてやることができた。 音の特徴がわかるようになった。
使えるリズムの種類が増え、曲づくりの幅が広がって去年よりレベルの高い曲を作れた。
これまで取り組んだ合唱曲の作曲家や、鑑賞で作曲家が表現したことを、自分も作曲する側になってできるように考えて取り組んだこと。
去年より色々なコードが含まれた長い旋律を作れた。

1 題材名 コード進行をもとに旋律をつくろう

教材名 表現（創作） My Melody 音のつながり方の特徴を生かして旋律をつくろう

【本教材で扱う学習指導要領の内容】

A 表現 （3）創作ア、イ（ア）、ウ

〔共通事項〕（1）ア

- ・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素
リズム、旋律
- ・用語や記号など
和音（コード）

2 題材について

（1）題材の目標

- コード進行及び音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解し、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。 （知識及び技能）
- リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫する。 （思考力、判断力、表現力等）
- コード進行及び音のつながり方の特徴に関心をもち、音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。 （学びに向かう力、人間性等）

（2）題材設定の理由

本題材は、コードの響きを味わいつつ、コード進行に合わせて音のつながり方を工夫したリズム、旋律をつくることをねらいとしている。

小学校からの学びのつながりや積み重ねを実感できるよう、小学校で経験した音楽づくりの条件よりも音域に幅を持たせ、経過音等の非和声音も効果的に取り入れてよいこととする。また、今回は作品の歌詞もテーマに合わせて自分で設定することとする。

タブレットを用いて一人ずつ曲を創作するが、協働的な学習の場面も設定し、他者の意見やよい点を取り入れながら創意工夫を重ね、思いや意図を表現することができるようにしていきたい。

（3）生徒の実態（38名）

生徒は、小学校6年次に「ソングメーカー」を用いて1オクターブの音域で4小節の単旋律を作成し、それに合うリズムを組み合わせて、「単旋律+打楽器音」の形態でチャイムの音楽づくりを経験している。

中学校では本授業が初めての創作となる。

今回、授業実施にあたり事前にアンケートを行った結果は以下の通りである。

(令和6年12月20日実施、38名中34名回答)

- ・音楽の授業での取組で、どんな力を伸ばしたいですか。(複数回答可)
歌唱30%(22名)、器楽32%(24名)、鑑賞12%(9名)、創作26%(19名)
- ・創作ができるようになったら、どんなことに役立つと思いますか。
生徒の回答：動画制作やゲーム制作、CM制作の仕事に生かせそう／創作を経験することで、音楽の聴き方が変わりそう／作曲の大変さがわかって、音楽をもっと大切に感じ取れるようになる

「音楽の授業での取組で、どんな力を伸ばしたいですか」の回答は、歌声活動が盛んな校風であることや、アンケート実施時に器楽の授業を行っていた影響で、歌唱と器楽の比率が高い結果となったが、未実施である創作への意欲もやや高いことがわかった。また、「創作ができるようになったら、どんなことに役立つと思いますか」の質問に対して、身についた知識や技能を、職業や日常生活で生かしたいと考える生徒が多いことがわかった。音楽的な知識や能力の高い生徒は多くはないものの、音楽授業に意欲的に取り組むことのできる生徒が多く、自分の意見を活発に発言しやすい雰囲気を持っている。また、歌唱や器楽では仲間と協働しながら互いを高める雰囲気もある。本授業でも、個人で創作するだけでなく、仲間と助け合いながら創意工夫する喜びや楽しさを実感できるようにしていきたい。

(4) 指導観

創作への難解なイメージや苦手意識を感じさせないように、第1時の導入では生徒にとって身近なCMソング等を用いて、短い楽曲の中にもさまざまな思いや意図が含まれ、工夫がされていることに気づけるように促していきたい。少ない授業時数の中で曲の完成を目指すため、今回は予め歌詞づくりのヒントとなるテーマを5つ設定し、選ぶ方式としている。同じテーマを選んでも、人によって感じ方や雰囲気の違いが生まれたりすることも味わったり楽しめるようにしたい。また、これまで歌唱(「夏の思い出」「アニーローリー」「赤とんぼ」合唱曲など)や鑑賞(ヴィヴァルディの「四季」など)の授業で感じ取った「上行すると広がる感じ」「細かいリズムは跳ねる感じ」「言葉の抑揚に合わせて旋律を設定すると、聴きやすく感じる」という感覚を、創作に還元させることを促し、小学校での音楽づくり経験よりもさらに音楽的に充実した作品の完成を目指したい。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 コード進行及び音のつながり方の特徴について、表現したいイメージと関わらせて理解している。 技 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている。	思 リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	態 コード進行及び音のつながり方の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

4 題材の指導と評価の計画 4時間扱い（本時 3 / 4時間）

次	時	◎ねらい○主な学習内容・学習活動 ☆〔思考・判断のよりどころとなる 主な音楽を形づくっている要素〕	○教師の発問や支援 ・目指す（予想される）生徒の姿 （記述・工夫・発言等）	評価の観点 〈評価方法〉			
					知・技	思	態
◎創作への興味・関心を高め、つくりたい旋律やリズムのイメージを持つ。							
第 一 次	第 1 時	○身近なCMソング等を聴き、旋律やリズムの特徴やよさについて話し合う。 ・CMソングがなぜ覚えやすく親しみやすいのか、歌詞、旋律、リズムの項目に分け、グループで話し合い、気づいたことを発表する。 ○創作する曲のテーマを決め、テーマや歌詞のイメージを持つ。 ○創作するI-IV-V-Iのコード進行の響きや曲の長さ、創作の条件を確認する。 【条件】 ・4分の4拍子、4小節の旋律をつくる。 ・I-IV-V-Iのコード進行に合うように、和音構成音を使用する。経過音等の非和声音も効果的に使用してよい。 ・使用できる音域は「イから2点ホ」とする。 ・音の長さは、八分音符・八分音符以上とする。 ・イメージを表現するために上行、下行、順次進行、跳躍進行などに注目して、音のつながり方を工夫する。	○生徒が知っているCMソング等を準備し、旋律やリズムの特徴やよさに気づけるように働きかける。 ・言葉の意味や、伝えたいメッセージをどのように工夫すれば伝わりやすいか考えることができる。 ○5種類のテーマから選択させ、どのような旋律をつくりたいかイメージをもたせる。 【テーマ】 ①クリスマス②お正月③冬の自然 ④冬のスポーツ⑤冬の食べ物 ○I-IV-V-Iの音と創作の条件を提示し、教師が創作した見本を聴かせてイメージをもたせる。 ○条件について説明したワークシートを配付し、生徒が確認できるようにする。 ・創作の条件を理解することができる。	知 <			

	・書き出した言葉をもとに、歌詞を考え、ワークシートに記入する。 ・言葉を言い換えたり、並び替えたりして、より魅力が伝わりやすく、印象に残るように工夫する。 ○歌詞にあった旋律やリズムを考える。 ・タブレットを使って、言葉の抑揚やリズムに合った旋律を創作する。 ☆〔旋律・リズム〕	○既習の楽曲や第1時で紹介した楽曲を用いて、言葉の抑揚やリズムに合った旋律を説明する。 ・思いや意図をもち、歌詞やイメージに合った旋律になるように試行錯誤している。			
第3時 本時	○前時の活動の振り返りを行い、コード進行の響きや創作の条件を確認する。 ○創作した曲をグループ内で発表する。 ・自分の曲について、思いや意図、工夫した点を伝える。 ・他者の曲を聴いて、よい点や改善点を伝える。 ○他者の意見を取り入れて改善をし、曲を完成させる。 ☆〔旋律・リズム〕	○前時に創作している曲が、条件に沿っているか確認する。 ・自分の曲について、思いや意図を説明することができる。 ・他者の曲のよい点を味わって聴くことができる。 ・他者の曲を聴いて感じたことや意見交換から、新たな気づきや改善点を見出すことができる。		↓ 【思】 〈観察・ワークシート〉	
第4時	○創作した曲をクラスに発表する。 ・歌詞や工夫した点を説明し、創作した曲を鑑賞し合う。 ・友達の発表を聴いて、感じたことやよい点をタブレットにまとめる(オクリンク)。 ○創作や発表の振り返りをする。 ・今回の創作について振り返り、学んだことや身についたことについて考え、フォームで送信する。 ☆〔旋律・リズム〕	○クラス全体に歌詞と音を共有できるように、ホワイトボードとスクリーンの準備をする。 ・自分の曲について、思いや意図、工夫した点を説明することができる。 ・友達の曲のよさを味わって聴くことができる。 ○今回の学習で学んだことや身についたことを実感し、今後の創作活動や音楽活動に意欲的に取り組もうとしている。	↓ 【技】 〈発言・作品〉	↓ 【聴】 〈発言・観察〉	

5 本時の指導(3/4)

(1) 本時の目標

創作した曲をグループ内で紹介しあい、自分や友達がつくったリズムや旋律が生み出すよさやおもしろさ、美しさを感じ取りながら、より自分の思いや意図に近づく曲になるように工夫する。

(2)本時の展開

時配	○主な学習内容・学習活動 ☆〔思考・判断のよりどころとなる主 な音楽を形づくっている要素〕	○教師の発問や支援 ・目指す（予想される）生徒 の姿 （記述・工夫・発言等）	評価の場面 〈評価方法〉		
			知・技	思	態
10分 (一斉)	○前時の活動の振り返りを行う。 ・創作している曲が提示された条件に合 っているか確認する。 ○本時のねらいを確認する。	○掲示物や配布プリントを見せ ながら、丁寧に確認するよう促 す。			
	友達の曲のよさやおもしろさを味わい、それらを生かして自分の曲がより よいものになるように工夫しよう				
15分 (個人)	○中間発表へ向けて、曲を仕上げる。 ・歌詞を表現するために、旋律やリズムを 工夫して創作する。	・本時のねらいを理解し、完成に 向けて主体的に創作に取り組も うとしている。 ・さまざまな音を試したり、リズ ムを変えたりしながら、自分の 思いや意図を表現しようとして いる。 ○作業が進まない生徒には、ま ず思いや意図を聴き取り、それ を表現するためにどんなリズム や旋律がいいか、さまざまな例 を示す。 ○タブレットの操作方法につい て、わからないことや困ったこ とがあれば手を挙げさせ、個別 に支援する。全体に共有するこ とがあれば、伝える。			
15分 (グル ープ)	○創作した曲をグループ(4人程度)内で 発表する。 ・自分の曲について、思いや意図、工夫し た点を伝える。 ・友達の曲を聴いて、よい点や改善点を伝 える。	○ワークシートを配布し、グル ープ発表の流れを確認する。 ・自分の曲について、思いや意図 を説明することができる。 「音を跳躍させて、広い空の様 子を表現した」「雪がちらちらと 降る様子を表現するために、リ			

思（観察・ワークシート）

1 題材名 学校紹介ソングをつくろう

教材名 表現（創作） My Melody 和音の動きに合わせてまとまりのある旋律をつくろう

【本教材で扱う学習指導要領の内容】

A 表現 （3）創作ア、イ（ア）、ウ

〔共通事項〕（1）ア

- ・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素
リズム、旋律
- ・用語や記号など
和音（コード）

2 題材について

（1）題材の目標

- コード進行及び音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解し、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。 （知識及び技能）
- リズム、旋律を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫する。 （思考力、判断力、表現力等）
- コード進行及び音のつながり方の特徴に関心を持ち、音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。 （学びに向かう力、人間性等）

（2）題材設定の理由

本題材は、これまでに習得した知識や技能を活用しながら、まとまりのある創作表現を創意工夫することができるようになることをねらいとしている。

1年次には、I-IV-V-Iのコード進行に合うように和音構成音を使用して4分の4拍子4小節の創作を実施した。今回は、J-POPでも用いられることが多く、生徒にとって身近なカノン進行（I-V-vi-iii-IV-I-IV-V）を用いて、4分の4拍子8小節の創作とする。1年次よりも長い小節数であり、マイナーコードも含むコード進行を条件とすることで、学びのつながりや積み重ねを実感できるようにしたい。

生徒の創作意欲が湧くように「大山口中学校紹介ソング」を創作のテーマとし、実際に地域の小学生へ聴かせる。学校の魅力や、先輩としての思いを曲に込め、曲を聴いた小学生が中学校生活へ期待を持つと同時に、聴いた小学生にとっても中学校の音楽授業の学びへ意欲を高めることができるような旋律づくりを目指したい。

(3) 生徒の実態 (38名)

1年次に音楽創作ソフト「カトカトーン」を用いて、4分の4拍子4小節の旋律づくりを経験している。思いや意図を表現する旋律づくりとしたため、歌詞をはじめに作成し、それに旋律をつける流れで行った。

歌詞づくりに時間のかかる生徒が多く、伝えたいテーマを限られた小節数に入るように言葉を選んだり、語感のいい単語を探したりすることに苦労している様子であった。

歌詞づくりに時間がかかった一方、旋律づくりは、タブレットのソフトを用いることで、音の高さやリズムの細かさを認識しやすいようであった。

実際に作った曲を発表の際に口ずさんでみると、

- ・使用できる音をコードに含まれる音と限定することで音がきれいに重なり、聴きやすい旋律になる。
 - ・リズムや旋律が、言葉を話すリズムや抑揚と合っていると、歌いやすく、聴いている側も心地よく感じる。
 - ・広がりを感じさせるために跳躍進行を用いることは効果的だが、多すぎると歌いづらくなる。
- という気づきを得ることができた。これらの気づきを、本授業に生かせるようにしていきたい。

(4) 指導観

歌詞づくりは道徳授業で行うこととし、テーマは生徒にとって身近に感じられる中学校紹介の歌詞づくりとする。中学校の特色や学校生活の魅力を教科等横断的な視点で考えられるよう促し、音楽授業では旋律づくりに重きをおけるようにしたい。

「言葉→リズム」「リズム→言葉」をつくる常時活動を行い、言葉と関わらせてさまざまなリズムパターンを身につけておくことで、旋律づくりをスムーズに行えるようにしていきたい。1年次では8分音符を用いたリズムパターンをつかったゲームを実施していた。2年次からは16分音符のリズムパターンを取り入れている。

カノン進行(I-V-vi-iii-IV-I-IV-V)の旋律づくりにあたって、歌唱授業や鑑賞授業でもカノン進行が含まれる曲を扱い、和音の響きや効果を感じたり、味わえたりするようにした。歌唱や鑑賞で感じた和音の響きの印象やイメージを、旋律づくりでも生かせるようにしていきたい。

打ち込んだ音をすぐに確認でき、視覚的にわかりやすいことから、今回も音楽創作ソフト「カトカトーン」を用いて、仲間と協働して創作活動を行えるようにする。また、音を出しながら旋律を確かめられるように、各班にミニキーボードや得意な楽器を用意して、タブレットだけでなく楽器や声で音を確かめながら旋律づくりに取り組めるようにしていく。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知コード進行及び音のつながり方の特徴について、表現したいイメージと関わらせて理解している。 技創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている。	思リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	態コード進行及び音のつながり方の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

4 題材の指導と評価の計画 3時間扱い (本時 2 / 3時間)

次	時	◎ねらい○主な学習内容・学習活動 ☆〔思考・判断のよりどころとなる 主な音楽を形づくっている要素〕	○教師の発問や支援 ・目指す(予想される)生徒の姿 (記述・工夫・発言等)	評価の観点 〈評価方法〉		
		◎歌詞に合ったリズムを考える。条件に合ったまとまりのある旋律をつくる。		知・技	思	態
第 一 次	第 1 時	○担当するテーマ部分と担当する小節を決める。 ・グループがどの歌詞のテーマを担当するか決める。 ①学校紹介ソングスタート ②③小学校と中学校の違い ④大山口中学校の魅力 ⑤大中あるある ⑥先生あるある、生徒あるある ⑦部活や委員会について ⑧行事について ⑨小学生へのメッセージ ○創作の条件を確認する。 【条件】 ・4分の4拍子、1グループ8小節の旋律をつくる。 ・カノン進行(I-V-vi-iii-IV-I-IV-V)に合うように、和音構成音を使用する。経過音等の非和声音も効果的に使用してよい。 ・使用できる音域は「イから2点ホ」とする。 ・使える音価は、16分音符より長い音符とする。 ・イメージを表現するために上行、下行、順次進行、跳躍進行などに注目して、音のつながり方を工夫する。 ・言葉のリズムに合うように、常時活動で取り組んだ16分音符のリズムパターンを用いる。	○道徳の授業で作成した歌詞の中で決めさせ、どのような旋律をつくりたいかイメージをもたせる。 ・「部活についての歌詞なので、細かいリズムを使って活発な様子を表現したい。」「行事が盛り上がるという歌詞なので、適切に跳躍進行を用いて盛り上がり表現したい。」など。 ○カノン進行(I-V-vi-iii-IV-I-IV-V)のコード音と創作の条件を提示し、教師が創作した見本を聴かせてイメージをもたせる。 ○条件について説明したワークシートを配付し、生徒が確認できるようにする。 ・創作の条件を理解することができる。 ○言葉のリズムを確認し、常時活動で身につけたリズムパターンを提示する等して、リズム設定がスムーズにできるように支援する。 ・さまざまなリズムを考え、口に出して、歌いやすいか試す。 ・グループ内で進みの遅い生徒のサポートをする。	 知		

		○歌詞に合ったリズムを考える。 ・ミニホワイトボードに書き込んだり、音符磁石を使ったりして、歌詞に合うリズムを考える。 ○考えたリズムに合わせて、旋律を考える。 ・カトカトーンを用いて、コード進行にあった音を選び、歌いやすくまとまりのある旋律をつくる。 ○振り返りをする。 ☆〔旋律・リズム〕	○使用できる音を確認し、歌いやすい旋律となっているか確かめるよう指示する。 ・自分の創作しているリズムが歌いやすく、意図したものになっているか、実際に声を出したり楽器で音を出して試している。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

	修正し、完成させる。 ○振り返りをする。 ☆〔旋律・リズム〕				
第 3 時	○創作した曲をクラスに発表する。 ・班で担当した旋律をつなぎ合わせる。 ・歌詞に合わせて歌う練習をする。 ・歌詞や工夫した点を説明し、創作した曲を音源に合わせて歌い発表する。 ・他の班の発表を聴いて、感じたことやよい点をタブレットにまとめる。 (オクリンク) ○創作や発表の振り返りをする。 ・今回の創作について振り返り、学んだことや身についたことについて考え、フォームで送信する。 ☆〔旋律・リズム〕	○クラス全体に歌詞と音を共有できるように、ホワイトボードとスクリーンの準備をする。 ・自分の担当部分について、思いや意図、工夫した点を説明することができる。 ・他の班の曲のよさを味わって聴くことができる。 ・今回の学習で学んだことや身についたことを実感し、今後の音楽活動に意欲的に取り組もうとしている。			 思 〈観察・ワークシート〉  態 〈発言・観察〉

5 本時の指導(2/3)

(1)本時の目標

グループで音や音のつながり確かめ合い、表したいイメージに合った旋律を完成させる。

(2)本時の展開

時配	○主な学習内容・学習活動 ☆〔思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素〕	○教師の発問や支援 ・目指す(予想される)生徒の姿 (記述・工夫・発言等)	評価の場面 〈評価方法〉		
			知・技	思	態
10分 (一斉)	○前時の活動の振り返りを行い、コード進行の響きや創作の条件を確認する。 ○本時のねらいを確認する。 グループで音や音のつながり確かめ合い、表したいイメージに合った旋律を協力して完成させよう。	○掲示物や配付したワークシートを見せながら、丁寧に確認するよう促す。			
20分	○グループ内でそれぞれの担当部分を聴	○自分の思いや意図に沿った、			

(グループ)	き合い、条件に合っているか確認し、よりよい旋律となるように修正していく。 ・お互いの担当部分を実際に歌ってみたり楽器を鳴らしたりして、コードの響きや歌詞の言葉のリズムが表したいイメージにあるかどうか、意見交換をする。 ・意見交換したことを踏まえて、旋律を再考する。	根拠のある音選びができるように促す。 ・「盛り上がるという歌詞だから、音域を高めを設定した。」「リズムミカルにして、楽しさを表現した。」「言葉のリズムが印象づけられるように繰り返しにした。」など。 ○お互いの担当部分を実際に歌ってみたり楽器を鳴らしたりして、コードの響きや歌詞の言葉のリズムがふさわしいかどうか確認するように促す。 ・本時のねらいを理解し、完成に向けて主体的に創作に取り組もうとしている。	
15分 (グループ)	○グループで担当部分をつなげる。 ・グループ内で聴かせ合い、グループの仲間で歌ってみる。 ・つながり方が自然で、歌いやすくまとまりのある旋律になっているか、歌ったり楽器で音を出したりしながら修正し、完成させる。 ☆〔旋律・リズム〕	・グループ内で進みの遅い生徒がいれば、協力して仕上げる。 ・声に出して歌ったり、楽器で音を出したりして、表したいイメージの旋律やリズムになっているか確かめようとしている。 ・さまざまな音を試したり、リズムを変えたりしながら、自分の思いや意図を表現しようとしている。 ・友達の担当部分を聴いて、感じたことや意見交換から、よさや気付きを見出すことができる。 ○お互いの担当部分を実際につなげて歌ってみたり楽器を鳴らしたりして、つながり方が自然でまとまりのある旋律になっているかどうか確認するように促す。 ・声に出して歌ったり、楽器で音を出したりして、表したいイメ	

5分 (個人)	○本時の学習の振り返りをする。(フォーム)	ージの旋律やリズムになっているか確かめようとしている。	
------------	-----------------------	-----------------------------	--

(3)板書計画(前方モニター・模造紙)

(前方モニター)

学: グループで音や音のつながり確かめ合い、表したいイメージに合った旋律を協力して完成させよう。

- ①前回のふりかえり、条件の確認
- ②担当部分をグループで聴き合い、意見交換
- ③グループでつなげて、完成させる

(模造紙)

大山口中学校紹介ソング

(歌詞)

(模造紙)

創作の条件・ポイント

- ・4分の4拍子、1グループ8小節の旋律をつくる。
- ・カノン進行(I-V-vi-iii-IV-I-IV-V)に合うように、和音構成音を使用する。経過音等の非和声音も効果的に使用してよい。
- ・使用できる音域は「イから2点ホ」とする。
- ・使える音価は、16分音符より長い音符とする。
- ・イメージを表現するために上行、下行、順次進行、跳躍進行などに注目して、音のつながり方を工夫する。
- ・言葉のリズムに合うように、常時活動で取り組んだ16分音符のリズムパターンを用いる。

(模造紙)

カノン進行の構成音(楽譜)

カノン進行が用いられている曲

(模造紙)

常時活動で取り扱ったリズムパターン